

平成9年、半島地域の資源である「砂」を町おこしに活用した、「サンドクラフト in 八竜」を立ち上げた八竜町。地域住民らによる行政と一体となったボランティア活動が、砂像制作技術の向上を生み、町最大の真夏のイベントとして地域活性化に繋がっています。

## 住民ボランティアが支える真夏の祭典「サンドクラフト in 八竜」(八竜町)



「サンドクラフト2003 in 八竜」のメイン砂像となったフランスの世界遺産「モン・サン・ミッシェル」

### 「サンドクラフト in 八竜」

北には青森県境に連なる世界遺産白神山が聳え、南には国定公園が広がる男鹿半島を一望できる湾曲した長い砂浜の海岸線に位置する八竜町「釜谷浜海水浴場」。

ここで大中小約50基にも及ぶ砂像が、真夏の砂浜に忽然と現れて開催されるのが、町最大のイベント「サンドクラフト in 八竜」。

サンドクラフトとは砂の工芸・彫刻であり、札幌の雪まつりの雪像を砂に置き換え

れば想像できると思います。

砂をイメージするとサラサラとして飛ばされやすく崩れやすい感じがしますが、砂崩れを防ぐために特殊な工法を用いると城などの有名建築物や人物像、マンガの主人公や恐竜など立体感あふれる様々な砂像が制作可能となるのです。

### キッカケは町特産品が与えてくれた砂丘学会

八竜町が砂による町おこしを考えたのは、同町を会場に砂丘地農業をテーマとして全国砂丘学会が開催された平成8年のこと。(この地域では砂丘地を利用しているメロン栽培が盛んで、国内でも屈指のメロン産地としてその名を全国に轟かせています。)

同町でも丁度、町の活性化に向けた方策を模索していた時期で、同学会での名刺交換の際に、ある名刺に印刷され



子供達も自けじと砂像制作に励みます。



た砂色の彫刻物（砂像）が目  
に留まり、「何だこれは」とな  
ったのがキツカケで、砂を活  
用しての町おこしの取組みが  
はじまったのです。

先駆地として国内でも数少  
ない「サンドクラフト」を実  
施している団体のうち、昭和  
62年から続けている鹿児島  
県加世田市に職員を派遣、技  
術研修やイベント開催のノウ  
ハウなどを学び、翌年には実  
際に同市から砂像づくりの技  
術指導に来てもらって、平成  
9年第1回「サンドクラフト  
in八竜」の実現までこぎつけ  
たのです。

### 圧縮作業とグルーによる コーティングが重要

砂像の制作は、大きくても  
小さくても基本的には同じで

建築用の型枠（コンパネ）を  
組んでその中に砂と水を入れ  
て圧縮して固め、それを数段  
繰り返しピラミッド状に積み  
上げていったものが砂像のベ  
ースとなります。雪像と違い  
根本的な補修のできない砂像  
は、この圧縮が弱いと制作時  
に割れが生じてしまうため重  
要な工程となります。

大きな砂像には建設用の大型  
特殊機械が投入され、まるで  
土木作業のようなスケールと  
なります。

作品は上のほうから徐々に  
制作され、完成した部分ごと  
に牛乳を主成分とする「グル  
ー」と呼ばれる凝固剤を噴霧  
器で吹き付けてコーティング  
して、グルーの割合によって  
はコンクリートのように固め  
ることも可能です。水溶性の  
凝固剤なので長いこと雨にさ  
らされると溶け出して自然に  
還り砂浜を汚しません。

### ボランティア活動で町の 活性化に貢献砂像連盟

「サンドクラフトin八竜」  
を主催運営するのは、町の商  
工会青年部、建設業協会、J  
A青年部、町職員など町民ら  
約百名で組織された「サンド

クラフト実行委員会」が当た  
ります。

毎年イベントの中央ステー  
ジに設置されるメイン砂像  
（幅・奥行7〜8m以上、高  
さ5〜6m）を制作するのは、  
平成11年に結成された八竜  
町砂像連盟（会員66名）が行  
います。

このメイン砂像づくりには  
約2週間を要しますが、メン  
バーおのおのの仕事を終えて  
から陽が沈むまでの作業のた  
め、時間が限られており、こ  
の期間は休日返上で行われ、  
中には仕事を調整したり休暇  
を取って一日中作業にかかる  
人もいます。また全員が実行  
委員会のメンバーでもあるた  
め、イベント準備などで猫の  
手も借りたい程の忙しさとな  
りますが、「サンドクラフト  
in八竜」の成功に向けて真夏の  
炎天下の中、苦勞を惜しま  
ず作業に当たっています。

砂像連盟では毎年のメイン  
砂像制作のほか、要請があれば  
日本各地にサンドクラフト  
制作に赴き、イベント等の手  
伝いや砂像制作指導などの活  
動を行っておりです。また、  
その技術は民放の人気テレビ  
ドラマから制作依頼があった  
り、砂の彫刻国内大会で準優

勝する会員もいるほどです。

平成14年1月、半島地域の  
資源である砂を町おこしに巧  
みに利用し、行政と一体化し  
たボランティア活動で、町の  
活性化に貢献、イベントを通  
じて他地域と交流など、砂像  
の普及を通じたまちづくりが  
高く評価され、国土交通省の  
半島地域活性化優良事例とし  
て、「半島地域振興対策協議会  
長賞」を受賞しました。

### 見所は夕陽に映え、洋上 花火に浮かび上がる砂像

中小型の砂像はコンテスト  
出品各チームの制作するもの  
で、大きさは中型で幅・奥行  
2.7m×高さ2.4m、小型で0.9  
m×0.9m、参加者は企業や学  
生・児童、民間団体などと多  
様で、50基近い作品が砂浜を  
彩ります。

また、招待チームとして特  
別砂像を第1回から手掛けて  
いる東京芸大生（現在はOB  
有志）制作砂像は、メイン砂  
像に次ぐ大きさと芸術性でイ  
ベントを盛り上げます。

第8回目を迎える今年の  
『サンドクラフト2004  
in八竜』は7月31日・8月  
1日に開催されます。今年の

メイン砂像のテーマは「THE  
E・サムライ」、そのほか丹精  
込めて制作された約50基の  
砂像が釜谷浜海水浴場に勢揃  
いいたします。

イベントでは、砂像制作体  
験コーナーや、特産のメロン  
早食い大会、観光協会主催の  
水着コンテストなどお楽しみ  
の企画が目白押しです。

特に初日の夕刻には釜谷浜  
の水平線に沈む夕陽に照らさ  
れて、茜色に染まる砂像の美  
しさを体験でき、更に夜には  
ライトアップされた砂像のシ  
ルエットを浮かび上がらせる  
洋上からの花火の演出で見る  
人を魅了します。

多くの住民ボランティアの  
結集のもと行政と一体となっ  
て運営されている、来る『サ  
ンドクラフト2004 in八  
竜』に注目したいところです。



砂像を一目見ようと大勢の観光客で賑わいを見せる釜谷浜海水浴場